



265
3+2

白次相安
持之史多每

豊の弥話詠卷四

古猪島野狐

豊の弥話詠卷四

目録

- 古猪島野狐
- 鼯鼠吞蛇
- 千葉の猛走
- 封乃生捕
- 大鳥捕人

毒炎
巻五

- 考嵐の妖怪
- 鶴奥人を逃
- 猫が獄の大虎
- 白太知怪

其の目録活説巻四

静観房好阿述

○ 古猫黨野狐

淋々小せうろ 編舟乃と 續後拾遺小後成口のみみ
 給ひし。い。も。も。川の中を我。其國れ。い。い。は。首ハ
 名。も。り。り。一。武士乃致仕して。ぞと。な。す。く。言。は
 人。何。り。ら。り。げ。人。り。馬。れ。達。者。わ。く。津。小。射。鹿。ハ
 ま。く。ま。た。る。名。人。あ。り。一。古。夜。百。中。乃。術。を。國。を
 隠。れ。な。り。一。か。志。あ。る。もの。集。り。集。り。師。弟。の
 突。物。あ。や。一。老。河。ま。る。あ。る。多。し。げ。人。お。小。物。を。好。む
 胡。堂。名。山。野。小。松。の。く。射。殺。せ。一。多。獸。の。そ。く。み。一



其の目録

く。そのいふにあらはれありめは陰かげふ。瓶びんの穴あなを
見付みつけく。阿あののハル青あおね葉はと精せいを火かとくけて穴あなに
ぬき入りしむ。瓶びんをぬにけしむ。とて又またきて射とぬ
かり。その後のちある夜よにぬにけしむ。とて又またきて射とぬ
女むすめ乃すなは首くび。鉄てつ瓶びんをくろく。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ
わくひ居ゐる。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ
一月いちげつふ。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ
月つきを起おこす。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ
床こゝろ小こをりる。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ
弓ゆみ弦なだを射やりて。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ

いうせん。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ
く。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ
妻つま女むすめ利き。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ
四方よつはたわく。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ
世よに化かけ。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ
瓶びん。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ
りる。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ
来き。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ
去さ。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ
射とぬ。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ
射とぬ。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ。とて又またきて射とぬ

備前奉引の中（備前奉引の中）に、讀誦大衆とせん（讀誦大衆とせん）。種元徳（種元徳）は乃
 際（際）に、法（法）・仏（仏）・施（施）・僧（僧）と元（元）との中（中）に、お（お）・法（法）・甚（甚）・元（元）・徳（徳）・は
 八（八）・方（方）・法（法）・甚（甚）・元（元）・徳（徳）・は、（八方法甚元徳は）
 享保の末（享保の末）、武（武）・公（公）・公（公）・の（の）・廿（廿）・海（海）・村（村）・野（野）・村（村）・の（の）・百（百）・廿（廿）・は、（武公公の廿海村野村の百廿は）
 法（法）・花（花）・乃（乃）・場（場）・十（十）・ヶ（ヶ）・寺（寺）・系（系）・詣（詣）・せん（せん）。先（先）・高（高）・祖（祖）・大（大）・善（善）・薩（薩）・也（也）
 降（降）・誕（誕）・乃（乃）・四（四）・乃（乃）・房（房）・乃（乃）・小（小）・溪（溪）・也（也）・生（生）・る（る）・信（信）・く（く）・ま（ま）・る（る）・上（上）・徳（徳）・更（更）
 也（也）。水（水）・を（を）・月（月）・の（の）・中（中）・に（に）・本（本）・野（野）・村（村）・と（と）・い（い）・ふ（ふ）・る（る）・也（也）。昔（昔）・の（の）・草（草）
 葉（葉）・末（末）・も（も）・ゆ（ゆ）・る（る）・る（る）・異（異）・也（也）。清（清）・水（水）・は（は）・す（す）・む（む）・ん（ん）・と（と）・川（川）・の（の）・急（急）・小（小）・立（立）・也（也）
 け（け）・れ（れ）・ど（ど）・甲（甲）・里（里）・人（人）・あ（あ）・ま（ま）・る（る）・集（集）・り（り）・ま（ま）・る（る）・も（も）・ある（ある）・程（程）・小（小）・い（い）・る（る）・也（也）
 け（け）・れ（れ）・ど（ど）・傍（傍）・あ（あ）・る（る）・人（人）・小（小）・い（い）・る（る）・也（也）。け（け）・れ（れ）・ど（ど）・は（は）・り（り）・あ（あ）・る（る）・也（也）。畢（畢）・也（也）。

跡（跡）の（の）・糸（糸）・不（不）・調（調）・一（一）・く（く）・あ（あ）・る（る）・夜（夜）・あ（あ）・る（る）・割（割）・も（も）・う（う）・ら（ら）・び（び）・つ（つ）・ある（ある）・畢（畢）・也（也）
 小（小）・も（も）・あ（あ）・る（る）・情（情）・を（を）・満（満）・ち（ち）・り（り）。物（物）・白（白）・に（に）・沈（沈）・け（け）・割（割）・の（の）・と（と）・小（小）・横（横）
 た（た）・り（り）・つ（つ）・る（る）。松（松）・の（の）・枝（枝）・小（小）・蛇（蛇）・一（一）・つ（つ）・運（運）・ら（ら）・つ（つ）・る（る）。居（居）・る（る）・と（と）・割（割）・を（を）
 枝（枝）・末（末）・の（の）・大（大）・く（く）・あ（あ）・る（る）・も（も）・の（の）・大（大）・蛇（蛇）・を（を）・ま（ま）・る（る）・也（也）。う（う）・り（り）・飛（飛）・ぶ（ぶ）・る（る）・也（也）
 件（件）・れ（れ）・蛇（蛇）・と（と）・蛇（蛇）・の（の）・又（又）・割（割）・へ（へ）・沈（沈）・し（し）・と（と）・推（推）・ま（ま）・る（る）・も（も）・の（の）・見（見）・つ（つ）・け（け）・て（て）
 物（物）・沈（沈）・せ（せ）・る（る）・也（也）。あ（あ）・ら（ら）・び（び）・集（集）・り（り）。割（割）・の（の）・あ（あ）・ら（ら）・び（び）・を（を）・汲（汲）・ほ（ほ）・つ（つ）・れ（れ）・を（を）
 う（う）・り（り）・の（の）・上（上）・に（に）・蛇（蛇）・と（と）・突（突）・ぬ（ぬ）・る（る）・と（と）・云（云）。け（け）・れ（れ）・ど（ど）・は（は）・り（り）・あ（あ）・る（る）・也（也）。畢（畢）・也（也）
 せん（せん）・と（と）・蛇（蛇）・居（居）・る（る）・里（里）・人（人）・乃（乃）・中（中）・へ（へ）・立（立）・ち（ち）・交（交）・り（り）・て（て）。割（割）・と（と）・一（一）・ハ（ハ）
 の（の）・掛（掛）・け（け）・は（は）・彼（彼）・男（男）・れ（れ）・之（之）・小（小）・遠（遠）・す（す）。一（一）・ツ（ツ）・ハ（ハ）・長（長）・一（一）・丈（丈）・余（余）。一（一）・ツ（ツ）・ハ（ハ）
 ハ（ハ）・ス（ス）・余（余）・と（と）・る（る）・ゆ（ゆ）・る（る）・鏡（鏡）・の（の）・竹（竹）・鏡（鏡）・は（は）・く（く）・突（突）・き（き）・ぬ（ぬ）・る（る）・也（也）。割（割）・の（の）

事 炎
 卷 二
 七



山崎山崎



事談 卷之四

ぬく 古格を化相とある男を牛でハいるぬ奴
 出まゝとあるとあざわくの狸相とやら指する小
 妖怪も肩と越ても。其後夜あつてるさいやうの牛も
 ぬくてぬくの必定狸れわいあると一と思ひ翌日ハ
 夜〜 みることも。狐狸の穴とある〜 死と云ふ
 うつ先〜 一みるかきして十日経さく〜 又女の知の
 急〜 行〜 小日人易く流る男の何方行〜 也
 不男かまひぬ小十郎が牛に乗るるとんて我等
 牛小のせよある〜 今も声は何とせんはる〜 相そ
 牛小〜 あり〜 したをびらをの化〜 小のや〜

目小相とせん〜 くら〜 かつ〜 小の福の
 半あり。わま〜 小の方小あり〜 結ゆ結つ来れと
 脊中小宗のせのに結ゆれ〜 ち〜 海〜 小を引
 出〜 あり〜 身志と結ゆ〜 ち〜 とも
 う〜 せの〜 ありと折つ〜 小と振ゆ
 我も来〜 引下〜 てる〜 小に結ゆ〜 ち〜 小
 友達と〜 小〜 あり〜 小の情〜 ありと
 小ぬ顔〜 因ゆ相ゆ来〜 青和葉と〜 小
 焼た〜 小〜 忽ち相ゆ狸とあり〜 出ゆ〜 小
 さん〜 小打ゆる相ゆ小打ゆ〜 教〜 後色ゆの〜

どもどもまうのま 狸たぬきけふして答こたへしてる。妖怪ばけもの
よりおれらへしとあつたありりり利

○封つむぎ乃の生ひ捕とら

本草綱目五十一卷然乃封けいふと云へり。岡東乃
云葉にちつたをとりよそのやく。江戸やくも後葉川
西國の色あややく。夏のは童わらわれあ俗小這たぐやく
みよのわふ今いまはやくあよそのいやくしりり利
今小年こねん毎まい不ふ絶たせられ中玉の半と云。やま
在所しよちほあやくねと古ふるの人はやくしりり利
まめくるよある。其年小まのすれ。実ま流りゅうはやく

けふもこうくわらふあやく昔むかしはる人隣りん村むらへ
り。夜よもあやく門かど掃はきを毎まいうらるにこなぐげ不ふ隣りん家の
子八九こはちち小こあるが。しりりむやく病やまる。保たもたふ
及びおよび。ままままもあるやせせ。おおすすふ所ところ
川童かわたろうあやく一捕とらつてはる人おまへせんよめをと
分別ぶんべつしてちつくとあやくこまへるまねり回まわりせん
やく。あやくと抗か社しゃぢやく。しりりあやく提ひりやくを
洗童せんどうはやくひ。各おあやく者ものふりこめんや。しりり
はやくそや。我われ父ちち小こ若わかく。後日ごじつにはしりりやんや
と足あしずりして。おひしりりて。おまね人の目と接かて

隣の子小化こけなりとて一をるくろ食男小あつげ今下
 おく心侍こゝしとつわせと拵たての思おもうと家のまれ
 根小おはもく折檻せつがんもれは、今化とあつげ
 面おもてとぐりて瓶びんのおく、身侍みん滑なめ小して絵小えこ知しり
 既いくほもて白しろれや。うすうすうすいゝ家に遠たく
 水虎小みづこゆるるもれ。是見み終つひと一村いちの者もの京
 んせりもハハ。しもく。んるもの市いちれと。坊ぼく
 苧と纒ま十菊じきく合あく早はやしうくあれ前まへゆる板小いたこ志し
 く不加かめ付つけて。食く物ものもつるすむとい二日ふたさじ
 香かるる種小たねことつつの者もの是こゝとさうて。幸さいと集あて

見みゆる。去さる種たねに中ちゆう二日ふた迄まで。之こゝ目小めこ尚なほ約やくもあれ女房にようぼう
 洗濯せんたくもるとて井いの掬く小こあつ。川かわ帝小ていこむいいは
 畜ちゆう類るいなうく能よくくる。せ小せハハを色いろ名なを産うて
 哥か小こも詩し小こはくくももつる牛馬うま乃なり
 やく人ひととたもも世よ小こ補たひある歎なげもつる小こ。世よハ
 人ひとれをすする子これとつ入いく。江え冷ひやく思おもはる乃なりの
 仕業しごふだまうにまゝるる。世よハハ罪つみはとせし。派はとら
 うみ派はもさうめん。何なに小こあつく人と江え冷ひやくをや
 派はま。江え分ぶんやと。さうら。めあつ。洗濯せんたくせしめと
 頂うへくま。ひくも。家いへ小こ海うみく。家いへけ時ときを打うた。ゆき

たる川童のわづあめをびづおわも〜れ恩平
しつとものし〜。枝た小根あ〜りぬもぶ
もち〜すす逐うせらる。俵や水虎八頭よめ
うあるあ〜れとら〜もあむ。ち〜る百倍なる〜も
す〜とも〜り〜に守す。あ〜と〜と初めの人く
〜や集あ〜て〜るふ。件れ枝ハ川の根小のあ〜り
夢々穂ハす〜く小切〜水面に浮〜るり天晴
照〜と〜物あ〜り〜り〜と〜。皆〜舌と振ひるあむ

○大身瓶人

但馬國湯治れ温泉ハ元正天皇養老元年に

道智上人出石明神の神勅小依〜。之杉の下に
一十日曼陀羅位を修〜して祈出〜た毎ひ〜り
云何〜ていめ〜く〜り〜り地れ温泉小俗す〜人
わね〜。増鏡小。安加門院丹後のあまれ橋立
御免〜ふと〜あ。た〜〜ゆ〜。そ〜つ〜り但馬の
あめ〜の〜れれいでゆ光〜小り〜を給也。為これ
大納言光成乃三位あむ御位は〜すつ〜務
ら〜と〜あり。其外〜これ責人高位は〜方
〜り〜先。い〜り〜民を治〜ひ〜れ〜。地小
浴〜く〜病と治す。別〜り世京師〜乃良醫

後友氏い湯は知ち有あ半はんと流なが廣ひろけり積つみしゆ
法は國こく小こ牛ぎう傳でんつゝ入い湯はれ者もの甚し多たし。京きやう河か人にん
園い東とうらるゝとらるゝけ所ところ小こ牛ぎう。湯は治ちし物もの程ほど
下したれ河からり前まへ心こころ今いまりて四よ所ところ明あき神かみと始はじめ津つ居い山やま
縮ちぢきさまよの勝かち京けいとあり先まへ日ひ毎ごと小こ牛ぎうに道みち遠とほ
しるふ。あ。舟ふね俄い小こ雨あめ少すくなり来きあ。ぬ。雨あめ是こゝれ。刻とき
あ。り。し。ゆ。晴はれる。と。ま。ん。と。小こ社やしろ乃すなはち。あ。り。る。に
之これ入いる。小こ牛ぎう。向むかひ。田たは。時ときふ。牛ぎうは。く。い。る。田たの
入いる。せん。小こ牛ぎうと。畜ちくし。く。い。る。山やま原はら小こ腰こしけ
居いす。た。た。ま。あ。り。し。ゆ。せ。休やすむ。に。ま。い。い。ゆ。し。記

大おほ島しま群ぐんりり。と。あ。ち。畜ちくする牛ぎう乃すなはち脊せ中ちゆうを
洗けす。と。石いしを。踏ふみ。な。り。て。其その河から。り。と。も。あ。り。る。
群ぐん者ものも。あ。り。大おほ形かたちも。あ。り。給たまふ。う。け。り。と。も。あ。り。す。
い。う。あ。る。名なも。小こや。と。月つきと。も。あ。り。る。い。ん。居いる。に。
牛ぎうは。も。あ。り。と。角かくと。少すくなり。と。あ。り。る。と。な。り。と。な。り。
和わひ。り。ら。ま。う。牛ぎう飼かい遣せん拂はらひ。ん。と。や。あ。ひ。あ。ん。け。を。
あ。ふ。小こ石いしを。梳といて。石いしと。あ。お。つ。け。り。る。と。な。り。の
大おほ名な群ぐんり。て。牛ぎう飼かいう。既いれ。よ。と。居いる。と。な。り。と。
け。男おとこと。梳といて。産う産うと。あ。り。と。な。り。と。な。り。と。な。り。と。
ん。け。り。り。る。あ。り。と。な。り。と。な。り。と。な。り。と。な。り。と。

心係をあらうとてはるしと。さる後小峰よてのまこと
けし戸もや思おもひん。嵐のまをるもしと。ぼりしと
屋根うしとものがりる。拍河をりる。おて後
半女ちひなの友乃とものるも。うしと。げんさしと
しとに眠ねするも。半も。さるえげと。げうしと。け
納おす。嵐あ殺ころしと。行ゆ中ちゆうふ。幾いくと。う。終はるん
大おほきま。人の事ことふ。お。嵐あ殺ころ十じゅう匹ひつ有あら。ふ。ふ。ふ
あ。終はる。う。が。ま。う。し。と。さ。る。ん。ま。う。の。の。終はる
あ。ま。だ。た。げ。く。ハ。妖まじ怪まじと。あ。す。と。我われ。古ふる人の。中ちゆう約やくり

○鯉魚人を述

と総そうの玉たま市いち野の川が川が中ちゆう那なり。と。ふ。ふ。川が川が
何なにり。あ。る。ま。の。農のう業ぎやうの。ま。細こ出で。彼か小せう川が。あ。く。
淋しみと。洗あひ。り。る。果みふ。と。尺しゃくむ。う。り。れ。鯉こい魚ぎよ。あ。り。と
淋しみま。て。お。殺ころし。い。あ。け。く。あ。ふ。ゆ。り。を。あ。り。お。打う寄ぎ
て。合あい。も。る。ま。後のちは。の。目めを。終はる。又またけ。川が川が小せう那なり
淋しみと。洗あひ。の。舟ふねも。る。ふ。川が川がの。事ことに。な。り。と。常じょうハ
膝ひざと。さ。る。る。水みづ乃の。ま。る。ぬ。し。と。し。と。ま。終はる。ふ。う。ぬ
い。ぶ。う。し。と。い。あ。う。農のう具ぐけ。と。洗あひ。の。舟ふね
舟ふねも。る。ふ。俄い小せう大たいの。張はり。あ。う。白しろ浪なみ立たて。ま。い。ま。し
う。り。し。と。い。ま。色いろな。れ。を。早はやと。陸りくけ。け。う。う。く

見らるに大ある徳に川幅一たわの緒と送ぎく
(おきき) 遊来り彼男を目つけ世にわくまきするを
おそあーあんとおもあつたるかへら成り
け男所の色も強き(よ)をまんむして家持
(は) 遊来りける思たにけさき一徳の若
ありらん子を殺されーいさへゆりに川さ
よこちう。水を堰とめ(か)入させ俄小あを落
(おぼれ) け(おぼれ)るあを冷かると方便(た)もあそり
きくこあれーける。すぶ多徳八人とたりの我
(あ) ちき人のけり(あ)をー

○猫が山獄乃大蛇

伝説の玉通うれ内猫が獄の林森石を屋と云
(お) 山中百姓は人本こり小蛇あるに俄山中暗然の
(あ) ぐくわう。何もあふ法本たうくとわう
(あ) 出すと母ーうりはまは。撫(な)る(た)き(た)とら
(あ) 山とら。伝(た)う(た)る(た)ん(ま)た(ま)。け(け)玉(あ)まり(も)
(あ) あるん(と)ん(あ)る(あ)大(蛇)の(あ)き(た)と(た)け(く)遊
(あ) 来(り)た(ま)も(は)ま(あ)く(は)遊(り)る(あ)ふ(ま)も
(あ) 名の(あ)若(き)れ(あ)う(に)地(ま)の(あ)え(ら)る(あ)程(あ)思(一)
(あ) あ(う)う(う)う(あ)ん(あ)ふ(い)つ(あ)ま(あ)り(あ)ん(あ)大(蛇)の



事六
卷之四



事六
卷之四

十五

一ツ飛来り彼ありと遊つあはるる者あり
河平くそんつくだる先居る小彼赤坂の地
志へて小蹴ら積るお見つてふふと居る小
遠らうぬ新するうちにて度ましく然る舞りて
蹴あるあ。とどめにあはる百姓とも氣味ふ記
半よあこひひくそ社よりお捨ある新さう
あひ先くそ新し海うぬ守て志る。け然る小
まのとももの牛去社乃社をのつひなる一

○白太急怪

越後國の山家小。知のと沢ふ小く。田んぼあり

申ふ。おあう田んぼを指し。物な遠りこ云し
富る百姓あり。其名を田指と云。種小田地
餘多あり。ける。け男ある。夜いこし。けん。夜
あ。る。ま。て。産。あ。ら。れ。ぬ。候。小。お。也。と。云。お。り
あ。よ。日。し。ら。巻。し。て。銀。壺。一。指。人。の。あ。く。ま。く
産。め。乃。産。れ。後。へ。ま。あ。り。新。足。あ。く。そ。産。く
戸。を。あ。も。り。る。と。ん。く。ま。や。け。と。も。あ。ぬ。る。さ。い
云。を。し。あ。く。ま。志。も。新。幕。乃。指。と。い。く。後。を。利
志。へ。て。う。に。お。あ。せ。り。ま。し。ば。志。ば。一。腹。運。入。び
居。る。が。其。後。戸。の。透。る。ま。あ。り。く。ら。り。出。迎。去。り

ける。ふくけ。相公。すなは。程の中。ふもふれど
 とも。毎。う。に。お。か。ま。ま。より。二。日。さ。つ。く。神。衣。の。ま
 幼。た。事。其。お。ま。り。字。又。る。刻。離。れ。る。宮。隠。し
 行。し。に。帯。り。く。巻。し。も。る。八。十。八。と。い。ふ。白。犬
 幼。た。ら。が。先。く。を。さ。お。つ。つ。と。い。く。し。を。吹。く
 衣。の。裾。を。く。く。し。引。止。り。る。甚。た。事。ん。付。く。後。に
 白。犬。い。や。う。と。怪。と。知。る。や。と。云。傳。く。り。や。何。や。此
 事。も。有。る。事。ん。と。相。公。の。お。と。さ。ぶ。す。め。し。る
 鎌。の。者。し。だ。だ。づ。さ。く。さ。く。し。の。厨。え。り。る。前。に
 け。より。件。の。猪。飛。出。く。田。持。り。咽。喉。小。答。ひ。付

り。ふ。と。鎌。を。切。た。う。し。ひ。り。ふ。に。あ。や。ま。さ。び
 猪。の。首。を。と。り。さ。さ。り。ぬ。終。ご。咽。と。答。ひ。れ。り。六
 田。持。も。絶。入。し。り。る。と。お。け。の。者。者。し。う。と。思
 太。の。歌。や。う。や。と。て。走。り。お。け。侍。と。ん。て。奈
 驚。こ。い。お。け。お。お。さ。め。し。療。治。し。て。術
 平。愈。し。り。る。と。我。ぞ。彼。猪。が。首。ハ。の。う。だ。や。と
 せ。る。こ。ら。ほ。お。ご。る。と。て。ち。ふ。く。も。あ。つ。さ。そ
 あ。け。け。お。し。く。ら。ハ。尻。を。去。に。の。き。た。と。て
 何。や。し。と。さ。さ。し。く。み。白。犬。を。八。十。八。と。さ。ら。付
 一。ハ。采。ら。い。り。字。の。ら。も。と。田。持。は。け。持。し

初はうがなちのまじ。毎くそとるまじり
たはく主とあして悪とちす結ぬおあ利

事談卷四終

